妹　山

令和 2年　6月30日発行
吉野町立吉野中学校
文責　校長 紙岡秀樹

本校教育目標

学び合い、鍛え合い、ともに生きる

ツバメが学校の軒先に巣を作って子育てを行っていました。親鳥は１日飛び回り、餌を捕まえては巣に戻りひな鳥に餌を与えていました。多いときには１０分間に６回、餌を与えていました。自分の子どもを精一杯育てると言うことは、ツバメであっても人間であっても一緒だと思いながらツバメの子育てを見ていました。

さて、学校が平常通りに動き始めました。行事もできるものから徐々に始めています。やっと学校らしくなってきました。子どもたちも気持ちと体が徐々に慣れてきたように感じられます。先日１年生の生徒と話する機会がありました。中学校生活に慣れるのが精一杯で、かなり疲れているようです。「６月末から部活が始まる。」と言ったら「今よりもっと疲れるわ。中学校って勉強も部活も大変や。」という答えが返ってきました。早く中学校の生活ペースに慣れて欲しいと思いました。

１　６月５日（金）に１年生が学習机の制作を行いました。

毎年、入学式前の３月末に行っていた、机制作がコロナウイルス感染症の拡大防止による休業のため約３ヶ月遅れでようやく行われました。当日は町長様、教育長先生をはじめとして、「Re 吉野に暮らす会」のメンバーの方やボランティアの方々に多数協力していただき、７回目の机の制作が行われました。吉野特産の木を使い、子どもたちは真剣な眼差しで制作していました。これから３年間、楽しいことも苦しいことも共に生活することになります。卒業するときには、天板を卒業記念品として子どもたちに渡させていただきます。それまで、大切に使ってもらいたいと思っています。

2　３年生「吉中友灯工房」の取組が始まりました。

毎年恒例の行事である、「吉中友灯工房」が今年も始まりました。吉野町特産の木材、箸、和紙を使っての灯り作品は非常に幻想的な雰囲気を醸し出します。今年も、本校出身の灯り作家の坂本尚世さんに作品作りのワークショップをしていただきました。８月３日（月）には吉野高校で作品作りを行います。「吉中友灯工房」は、製箸組合、製材組合、和紙組合と吉野高校の協力をいただいて実施しています。子どもたちはどんな作品を制作するのか楽しみです。作品は２学期に学校で展示する予定ですので、ぜひご覧になってください。

3　吉野町がめざす教育

子どもたちを取り巻く環境、社会は急激に変化しています。将来予測が難しい社会を生きていく力や、情報や情報技術を主体的に選択 活用する力を身につけることが必要です。

吉野町では、文部科学省の「GIGA スクール構想」のもと、児童生徒が一人一台のパソコンをもち、「誰もがいつでも、どこでも学習できる環境」を整備しています。

4　部活動を再開しました。

先週の金曜日から部活動が再開されました。どの子にも充実感の溢れた表情を見ることができました。３年生はきっと有終の美を飾るために、手を抜くことをせず一生懸命頑張っていくことだと思います。頑張れ！３年生。これからの人生に必ずプラスになるはずです。